
【読み切り】めだかボックス

作者月詠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【読み切り】めだかボックス

【NZコード】

N8232P

【作者名】

作者月詠

【あらすじ】

お試し版、『めだかボックス』です！色々纏まり次第完全小説化するかも？

(前書き)

わーにんぐ！

この小説には多大なオリジナル主人公成分、中二成分、男の娘成分、チート成分が含まれています！

お嫌いな場合はブラウザバック！

【初登場編】

(よ、よひやく来れた…)

箱庭学園…その正門前に小さな影一つ。

「…おー…」こんな口に遅刻するなんて何を考えて…あれ?何時ぞやの…」

それを見て風紀委員の鬼瀬針音^{オニガセハリガネ}は数日前の少年を思い出す。

少年はスケッチボードに何かを書く。

カキカキ…

「えつと…オーラ「ざさん…」

「お・に・が・せで…」

少年、名を『^{「ハイロ}声意路^{ソウタ} 奏多^{」。}

一年十三組所属、血液型O型…

役職:『生徒会長補佐』

兼任で生徒会マスコットであるのが我らが主人公である。

【剣道部編】

カキカキ…

「日向さん…剣道二倍段、その意は…」

奏多は、いつもより小さめなスケッチボード片手に日向の懷に入る。

「剣道有段者に勝つには、その二倍の力量が必要だと『言つ事だよ…多分』

「おまつ…喋れタガツ…?」

言葉と共に日向の腹に垂直に『肘』と『拳』を叩き込んでぶつ飛ばす！

（出たな…奏多の真骨頂、『曖昧ウンチク拳術』：数少ない奏多の声が聞けるのは親しい奴か、間違った言葉使つた奴ぐらいだ…ちなみにその威力はめだかちゃん程じやないが半端じやない）

喋れない訳ではないのだ！

【柔道部編】

カキカキ…

「あつやんお久しぶり。元氣しました?」

「…あつやんは止めてくれ、泰多」

「…おつさん(ボソッ)

「…害虫は潰された」よつだな?」

「カツ!! 首根っこ掴みましょつか蛇先輩!!」

カキカキ…

「蛇でも虫でも食こから黙つてろ」

「「…ううあ」」

あつやんの城塙くんにイラシとせた泰多くんでした。

【風紀委員編】

「やつやーみんなん」

「坊さんみてえなアダ名やめうよ……」

「じゃあ何が良い?」

「冥利様とか「却下だバー口ー」無表情で話すなよ!」

カキカキ…

「思わず能力使いつこうになつたボクは悪くない」

「過激だなオイ」

奏多くん相手だと完全にシッ「!!」のがみよつちんなのさー。

【『十三組の十三人』編】

「同胞よ。俺と共に來い」

王土の誘いに奏多は自分のスケッチボードを降りし、王土を見据える。

「団に乗るな。都城王土…ボクはあくまで、『自らが認めた人たちの為に役立つため生まれてきた』と自負しているんだ。ボクの世界

に、傲慢な王はこりない

「ナリか…なり、『跪け』」

「『取り押さえ』」

秦多に変化は無く、代わりに王土が『何かに取り押さえられる様に地に伏せた』。

「なつ…」

「国には必ず、『裏の権力者』がいる。貴様の場合もまた然り…ただの『王の言葉の重み』ではボクには効かない」

ぶつちやけ秦多くんは田立たない?チートなのであるー!

(後書き)

以上です。
短いですが、あくまで読み切りですので…
それでは皆様、良いお年を～！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8232p/>

【読み切り】めだかボックス

2011年1月8日20時30分発行